

## 多職種連携

## 多職種連携論

[演習] 第3学年 前期 必修 1単位

《履修上の留意事項》この科目は、1回目 2 回目および6回目～15回目を20グループに分けて、21名の各担当教員が同時開講で演習を行う  
演習への積極的な参加と自らの行動を振り返ることに重点が置かれており、リフレクションシートの配点が高い。  
欠席するとその回の点数が0点となるので注意すること。

《担当者名》○本家寿洋 honke@hoku-iryo-u.ac.jp 巻康弘 宮地普子 武田涼子 若松千裕 澤田篤史 大須田祐亮 佐藤一成 用田歩 鎌田樹寛 坂上哲可 斎藤隆司 鈴木瑞恵 飯泉智子 柳田早織 内ヶ島伸也 明野伸次 若濱奈々子 近藤尚也 鈴木和 鈴木真人

## 【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実際についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学部学科をこえたグループワーク演習を通じ、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

## 【学修目標】

## 一般目標

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

## 行動目標

1. 対象者を中心とした視点が持てる。
2. 教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. 演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。
4. それぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを省察し、考えや価値観を再構築できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1・2	オリエンテーション	授業の進め方、課題の提出方法などについて理解する。アイスブレイキングを通してグループメンバーを理解する。1回目リフレクションシート	全担当教員
3	多職種連携の必要性と私たち・多職種連携に関わる各職種の役割	多職種連携が求められる背景、その重要性および病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について学ぶ。小テスト1回目	オンデマンド
4	多職種連携に必要な技術1	多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めるファシリテーターの役割について学ぶ。小テスト2回目	オンデマンド
5	多職種連携に必要な技術2・3	多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法および医療、保健、福祉の共通言語であるICFについて理解しICFに従って情報を整理する方法について学ぶ。小テスト3・4回目	オンデマンド
6・7	多職種連携演習	オンデマンド授業で学んだ多職種連携に必要な技術を用いた演習を通じて円滑な議論の進め方を学ぶ。2回目リフレクションシート	全担当教員
8・9	多職種連携演習	複雑化したニーズを抱える事例をもとに、課題となる点や介入方法を検討する。また、次回から開始する脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例をグループメンバーで情報を共有する。3回目リフレクションシート	全担当教員
10・11	多職種連携演習	脳卒中発症後1か月でリハビリテーション病院に転院し、6か月後の退院を目指した模擬事例を使用して、	全担当教員

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		退院の方向性や2か月後までの各職種の役割分担をグループメンバーで検討する。4回目リフレクションシート 特別講師：星野由利子、上田学、橋本恭尚	
12・13	多職種連携演習	リハビリテーション病院入棟後2か月経過した模擬事例の5か月後までの解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。5回目リフレクションシート 特別講師：星野由利子、上田学、橋本恭尚	全担当教員
14・15	多職種連携演習	リハビリテーション病院入棟後5か月経過した模擬事例の退院後の解決すべき課題と目標設定をグループメンバーで検討する。6回目リフレクションシート 特別講師：星野由利子、上田学、橋本恭尚	全担当教員

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト40%、演習後のリフレクションシート60%

【教科書】

使用する資料を適宜準備する。

【参考書】

北島政樹 著 「医療福祉をつなぐ関連職連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2022年

篠田道子 著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年

【備考】

オンデマンド授業を視聴し、視聴後に小テストを必ず受けること。

演習 ~ のグループワークは、 限2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

【学修の準備】

オンデマンド講義や演習の予習は、事前に配布される資料を読むことや、関連する内容の教科書を読んだうえで参加すること（2時間程度）。

オンデマンド講義後の復習は、数回オンデマンドを視聴して内容を説明できるようにする。また、演習の復習は実施した内容をもとに何を学んだのかを説明できるようにする（2時間程度）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

本家寿洋（作業療法士）巻康弘（社会福祉士）宮地普子（看護師）武田涼子（理学療法士）若松千裕（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での各領域での臨床経験を活かし、リハビリテーションにおける多職種連携について講義を行う。